

第 2 期鎌倉市地域福祉計画策定に
向けたワークショップ
まとめ

令和 7 年 7 月

鎌 倉 市

1 目的

第2期鎌倉市地域福祉計画（鎌倉市）の策定および第6次鎌倉市地域福祉活動計画（市社協）の進捗状況の把握に向け、地域生活課題の把握と解決策の検討を進め、住民が主体となって地域課題を多角的に捉え、実効性ある計画策定を目指すとともに、第6次地域福祉活動計画（かまくらささえあい福祉プラン）の進捗状況把握を行い、地域参加の機会を広げることを目的として実施しました。

2 実施日程・場所、参加人数

地区名	日程	場所	人数
腰越地区	6月14日（土）	腰越学習センター 多目的室	15名
西鎌倉地区			14名
鎌倉地区① （第1地区社協）	6月22日（日）	福祉センター 第1・2会議室	12名
深沢地区	6月29日（日）	深沢学習センター 第2集会室	17名
玉縄地区		たまなわ交流センター	17名
大船地区① （大船中学校区）	7月5日（土）	鎌倉芸術館 第1会議室	14名
大船地区② （岩瀬中学校区）			11名
鎌倉地区③ （第3地区社協）	7月12日（土）	福祉センター 第1・2会議室	19名
鎌倉地区② （大町・材木座）	8月2日（土）		19名

3 実施手法

グループワーク形式での意見交換を行いました。

4 実施テーマ

テーマ1：災害にみんなで備える！

テーマ2：ゆるくつながる場を考えよう！

テーマ3：地域の担い手をこれからどうしよう！？

テーマ4：地域や生活での困りごとをどうする？

5 意見のまとめ（概要）

目標1 地域で安心して暮らし、活動できるまちづくりの推進

（1）誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けた支援

①見守り活動について

- ・一人暮らしの高齢者が50人もいた
- ・高齢者と多世代のつながりが必要
- ・孤立している日が続く高齢者が多い

②地域福祉活動への支援

- ・自治会の役員をお願いするのも知り合い
- ・地域の高齢者のクールスポット
- ・公会堂で誰でも来ていい機会を作る

③コミュニティワークの充実

- ・「ゆるくつながる場を通じて障がい者の方との交流を
- ・障がいのある人と一緒に何かをやる機会があるとよい

④参加支援の取組

- ・参加したい気持ちが大事
- ・参加しようと思ってもらう（気持ち）
- ・一人では参加しづらい

⑤福祉のこころ醸成

- ・子どもたちと一緒に考える福祉が大切
- ・小学校で福祉を学ぶ（民生委員を知ってほしい）

⑥災害に備えた支えあい体制の整備

- ・避難所運営委員会の仲間を増やしたい
- ・震度5の手前の訓練を運営委員がきっかけに地域で活動できるといい

（２）地域における活動機会・人材育成・居場所の創出

①多世代交流の場づくり

- ・高齢者がいる所に放課後の子どもたちが来る場
- ・多世代でつながりの持てるゆい場がほしい
- ・子どもから高齢者がつながる・関われる場があればいい

②地域サロン、拠点の整備

- ・誰でも使える無料のスペースが必要
- ・居場所づくりのための場所を市がつくる
- ・地域の居場所が重要

③担い手研修や地域人材育成

- ・役割を持ちたい人が集まれる場がほしい
- ・地域での自分の役割
- ・地域の為に”役に立ちたい”でつながる

④地域イベントや学びの機会の提供

- ・お祭りはつながりづくりで重要
- ・大きな祭は商業的になっており、つながりは出来づらい
- ・行事があると親と子、多世代で集まれる

（３）住民・多様な主体の参画による地域福祉活動と支えあいのしくみづくり

①地域団体への支援

- ・町内会の求人サイト
- ・町内会の仕事に見直し、分散
- ・地区役員を若い人に（会長を 40 代にしてみる）

目標２：包括的な支援体制と協働ネットワークの構築

（１）多機関連携による包括的な相談・支援体制の整備

①包括的な福祉総合相談窓口の整備

- ・行きやすい相談場所
- ・色々な場所に相談できるところがある
- ・地域にくわしい相談相手がほしい

②相談支援機関の連携強化

- ・民生委員と包括は法律が違うため役割分担を明確にする
- ・民生委員さんを自治会での役員にする

③多機関の協働

- ・学校と地域の連携をする
- ・コミュニティスクールで若い世代の意見が出た

④アウトリーチによる伴走支援

- ・困りごとを拾うアンテナを張ってる人がいる
- ・ピンポンをする、TEL するがハードルになる

(2) 庁内および関連機関の連携体制を強化し、重層的な支援を推進すること

①重層的支援体制整備事業の推進

- ・横のつながりがあるが縦のつながりはない
- ・地域の中の縦割りをなくす

②関係課連携の仕組みづくり

- ・集いの中で社協・市と連携中
- ・学校も巻き込んだイベント、発信の地にする

③横断的会議体の運営

- ・情報を共有する（会議）
- ・地域でのそなえをみんなで考えたい

④鎌倉市くらし見守りネットワークの取組

- ・顔の見える関係が大切
- ・近所であいさつやいろいろ伝えられる関係づくり

(3) 情報共有と ICT 活用による支援基盤の整備

①福祉資源マップの作成・活用

- ・グループの情報が入手しやすい環境・仕組み
- ・地域に何があるのか、どこにあるか不明」

②官民プラットフォームの構築

- ・LINE などの情報網が出てきている
- ・LINE で地域のボランティアを集められるボランティアセンター的なものがあると良い

目標3：制度の狭間をつくらない福祉支援と権利擁護の推進

(1) 支援が届きにくい人へのセーフティネット強化

①生活困窮者支援

- ・ボランティアに関心はあってもお金の問題で悩む人が居る
- ・有償のボランティア

②就労支援との連携

- ・40-50 代早期退職の生きがいを探している方はいる
- ・在宅ワークで地域に目を向ける 40-50 代も増えた

③ひきこもり支援

- ・メンタルヘルス等、正しい理解をしてもらいたい
- ・社会でキズついた人がゆるくかかわれる場所があるといい

④はざまのはざま支援

- ・困りごとを共有したくない人もいる
- ・困りごとを拾うアンテナをはってる人がいる

⑤声を上げやすい・相談しやすい環境整備

- ・困った人に手を挙げてもらうことが難しい
- ・困りごとをつぶやく→シェアすることができたら

⑥人と人とのつながりを生むための施策の相乗効果を高める分野横断的な連携の促進

- ・地域のつながりが希薄で意見が出てこない
- ・つながりの場で困りごとを市や地域に伝える

(2) ケアラーへの支援

①ケアラー支援窓口

- ・子育て世代の孤立化
- ・子育て支援センター等で集まる場所はあるが、夏休みに中で遊べる場所があるとよい

②ケアラー同士のピアサポート体制

- ・子育てが終わると親の介護が始まってしまう
- ・働いてる若い世代の病児保育をリタイア組で

③制度周知

- ・わからないことを誰に聞けばいいかわからない
- ・おたすけマンがいるといい！！

④多機関の協働

- ・民生委員の子育て支援の年齢が下がっている
- ・子ども会では親が行う負担感がある

(3) 全世代・多様な人の自立と居住を支える地域づくり

①住宅確保支援

- ・空き家を活用したコミュニティーハウスをつくる
- ・空き家情報を集める

②外出・移動支援

- ・バスの本数が少なくなってきた
- ・小さなバスをくまなく走らせる
- ・免許を返納した後の移動手段が必要

③再犯防止の地域支援

- ・ 中通りで高額授業でパトロール（子供・地域）
- ・ 年金支給日に振り込め詐欺防犯

（４）権利擁護と支援制度の理解促進

①成年後見制度の普及

- ・ 悪質商法の被害者が増えている要因として、「さびしい」心理、情報交換不足があるのでは！

②虐待防止の推進

- ・ 病気や障がいを知られたくない部分もある
- ・ プライバシーの問題もある

（５）福祉を支える人材の育成・確保

①福祉専門職の確保・定着と市内就労支援の仕組みの整備

- ・ 担い手が見つからない
- ・ 気軽にやってもらえる、気軽にかかわれる環境
- ・ 若い人で自分でやろうという人が増えている